

# 日仏海洋学会誌 La mer 投稿規定

(2017年6月改訂)

1. 日仏海洋学会は機関誌として誌名 La mer を発行する。
2. La mer は、海洋学および水産学ならびにそれらの関連分野の研究成果を発表する学術雑誌であり、同時に研究者間の情報交換の役割をもつことを目的とする。
3. La mer は、原則として年4回発行され、投稿による原稿（依頼原稿を含む。以下、原稿）を、編集委員会の審査により掲載する。原稿の種類は、原著論文、原著短報、総説、学術資料、および書評他とする。これらの著作権は日仏海洋学会に帰属する。
4. 投稿者は、日仏海洋学会会員でなければならない。共著者に会員を含む場合は会員からの投稿とみなす。
5. 原稿の言語は日本語、仏語、英語のいずれかとする。ただし、要旨、表および図の説明の言語は英語または仏語に限る。原著論文は、和文表題、著者名および500字以内の和文要旨を原稿に添付する。ただし、日本語圏外からの投稿の和文要旨は編集委員会の責任とする。和文要旨は、「資料」として La mer に掲載される。
6. 原稿は、すべてコンピュータソフト（MS Word など）を用いて作成する。原稿サイズはA4判とし、白紙にダブル・スペース（和文では相当間隔）で記入する。表、図および図説明は本文とは別紙とする。
7. 原稿の体裁・形式および記載方法は「執筆要領」に従う。著者名は略記しない。記号略号の表記は一般的な基準に従う。引用文献の表示形式は、雑誌論文、単行本分載論文（単行本の一部引用も含む）、単行本などの別による基準（執筆要領）に従う。
8. 原図は版下用として、鮮明で縮小（版幅または1/2版幅）に耐えられるものとする。
9. 初稿に限り著者の校正を受ける。
10. 10印刷ページまでの掲載を3,000円/ページとする。上記限度を超える分の印刷実費はすべて著者負担（1万円/ページ）とする。ただし、カラー印刷を含む場合には、別に所定の費用（9万円/ページ）を著者が負担する。
11. 別刷りは有料（50部単位）で作成される。別刷り請求用紙は初稿校正と同時に送付される。
12. La mer は印刷後まもなく、学会ホームページ上へPDFを掲載する。投稿に際し、このことを承諾したものとする。
13. 原稿は下記のメールアドレスに添付ファイルを送付するものとする。なお著者（共著の場合は代表者）連絡先のE-mailアドレス並びにFAX番号を付けることとする。

〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7

東京海洋大学 海洋資源環境学部 海洋環境科学科（吉田 次郎 気付）

日仏海洋学会 編集委員会

E-mail : jiro@kaiyodai.ac.jp

## 執筆要領

(2017年6月改訂)

### 1. 原稿

- (1) 和文原稿の場合：コンピュータソフト（MS Word など）を使用し、A4判の用紙に横30字、縦25行を目安に作成する。
- (2) 欧文原稿（英語および仏語）の場合：コンピュータソフト（MS Word など）を使用し、A4判の用紙にダブルスペースで（縦25行を目安に）作成する。十分な英文校閲または仏文校閲を経て提出すること。
- (3) 和文原稿、欧文原稿いずれの場合も、要旨、表原稿および図版説明原稿はそれぞれ本文原稿とは別紙とする。
- (4) 最終原稿提出の際に、印刷原稿とともに原稿、表、図版が保存されたファイルを編集委員長宛てのメールアドレス（jiroy@kaiyodai.ac.jp）に提出する。この場合、原稿はMS Word, Just System 一太郎, PDFの原稿に限る。また、表、図版はこれら原稿ファイルの中に取り込むか、bmp, jpg等の一般的な画像ファイルに保存したものを提出する。

### 2. 原稿記載の順序

- (1) 原著（和文原稿）：原稿の第1ページに表題、著者名、研究の行われた所属機関、所在地、郵便番号を和文と英文で記載する。研究終了後所属機関が変わった場合は現所属機関も記載する。連絡先（共著の場合は連絡先とする著者を明示する）の住所、電話番号、ファックス番号、E-mailアドレスを記す。最後にキーワード（4語以内）、ランニングヘッドを英語で記載する。第2ページに欧文要旨（欧文表題、著者名を含む）を200語以内で記す。本文は第3ページから、「緒言」「資料」「結果」「考察」「謝辞」「文献」「図版の説明」などの章立てあるいは項目で順に記載する。基本的には最近号掲載論文の体裁を参考にして投稿原稿を作成する。原稿には、各行頭に通しの行番号と、各ページにページ番号を記入する。
- (2) 原著（欧文原稿）：原稿の第1ページに表題、著者名、研究の行われた所属機関、所在地、郵便番号を記載する。研究終了後所属機関が変わった場合は現所属機関も記載する。最後にキーワード（4語以内）、ランニングヘッドを記載する。第2ページに欧文要旨（欧文表題、著者名を含む）を200語以内で記す。本文は第3ページからとする。「Introduction」「Data（あるいは Materials and methods など）」「Results」「Discussion」「Acknowledgement」「References」「Figure Captions」などの章立てで順に記載する。基本的には投稿原稿の体裁形式は最近号掲載論文を参考にして作成する。最終ページに和文の表題、著者名、連絡先著者住所、電話番号、ファックス番号、E-mailアドレスおよび約500字以内の和文要旨を添える。原稿には通しのページ番号を記入する。
- (3) 原著短報、総説：和文・欧文原稿とも原著論文に準ずる。
- (4) 学術資料、書評：特に記載に関する規定はないが、すでに掲載されたものを参考にする。

### 3. 活字の指定

原稿での活字は 10.5-12 pt を目安に設定し、英数字は半角フォントを用いる。学名はイタリック、和文原稿での動植物名はカタカナとすること。句読点は (。) および (、) とするが、文献リストでは (.) および (, ) を用いること。章節の題目、謝辞、文献などの項目はボールドまたはゴシックとする。

### 4. 文献

文献は本文および図・表に引用されたもののすべてを記載しなければならない。和文、欧文論文は区別せず筆頭著者のアルファベット順（同一著者の文献については、発表年の古い順）に並べる。筆頭著者が同一の場合には、第二著者以降の姓（Family name）のアルファベット順とする。以下の例に従って記載する。

#### (1) 論文の場合

有賀祐勝, 前川行幸, 横浜康継 (1996): 下田湾におけるアラメ群落構造の経年変化. うみ, **34**, 45-52. (雑誌名については(5)を参照)

YANAGI, T., T. TAKAO and A. MORIMOTO (1997): Co-tidal and co-range charts in the South China Sea derived from satellite altimetry data. *La mer*, **35**, 85-93.

#### (2) 単行本分載論文（単行本の一部引用の場合）

村野正昭 (1974): あみ類と近底層プランクトン. 海洋学講座 10 海洋プランクトン(丸茂隆三編), 東京大学出版会, 東京, p.111-128.

WYNNE, M. J. (1981): Phaeophyta: Morphology and classification. *In* The Biology of Seaweeds. LOBBAN, C. S. and M. J. WYNNE (eds.), Blackwell Science, Oxford, p. 52-85.

#### (3) 単行本の場合

柳 哲雄 (1989): 沿岸海洋学—海の中でものはどう動くか—. 恒星社厚生閣, 東京, 154 pp.

SVERDRUP, H. U., M. W. JOHNSON and R. H. FLEMING (1942): The Oceans: Their Physics, Chemistry and General Biology. Prentice-Hall, Englewood Cliffs, New York, 1087 pp.

#### (4) 本文中での文献の引用

本文中での文献の引用方法はすでに発行された雑誌を参考にするが、基本的には次の形式に従う。

① GREVE and PARSONS (1977)

② (AVIAN and SANDRIN, 1988),

③ YANAGI *et al.* (1997)は・・・

(3名以上の共著の場合)

④ ……示されている (例えば、YANAGI *et al.*, 1997) (3名以上の共著の場合)

#### (5) 「うみ」および“La mer”の引用

日仏海洋学会誌の引用時の表記は、第54巻(2016年発行)から“La mer”とする。それ以前の論文は、和文の場合「うみ(Umi)」、欧文の場合“La mer”とする。

### 5. 図、表および写真

(1) 図、表および写真とその説明はすべて英語または仏語を用いる。

(2) 図、表、写真はそのまま写真製版用の草稿となるような明瞭なもので、bmp, jpg 等の

一般的な画像ファイルに保存したものに限り。カラーでの印刷を希望する場合はその旨明記する。この場合、別に所定の費用を著者負担とする。

- (3) 図、表および写真は刷り上がり時に最大横が 14 cm、縦が 20 cm（説明文を含む）以内であることを考慮して作成する。
- (4) 図（写真を含む）には、Fig. 1, Fig. 2, …のように通し番号をつけ、一つの図中に複数の図を含む場合は Fig. 3(a), Fig. 3(b), …のように指定する。本文中での引用は和文原稿の場合も「Fig. 1 にみられるように…」のようにする。
- (5) 表には、表題の次（表の上のスペース）に説明をつけ、表ごとに別紙とし、Table 1, Table 2, …というように通し番号をつける。
- (6) 最終原稿の提出時、図、表および写真の本文中での挿入箇所を原稿の該当箇所右欄外に朱書きで示す。
- (7) 図、写真の説明は別紙にまとめる。
- (8) 地図にはかならず方位と縮尺または緯度、経度を入れる。

#### 6. 単位系

原則として SI 単位を用いること。塩分として実用塩分 (Practical Salinity) を用いる場合は単位なしとする (psu や PSU を付けない)。

以上